

# 仕事・活動について

尾島 俊之

(浜松医科大学健康社会医学講座教授)

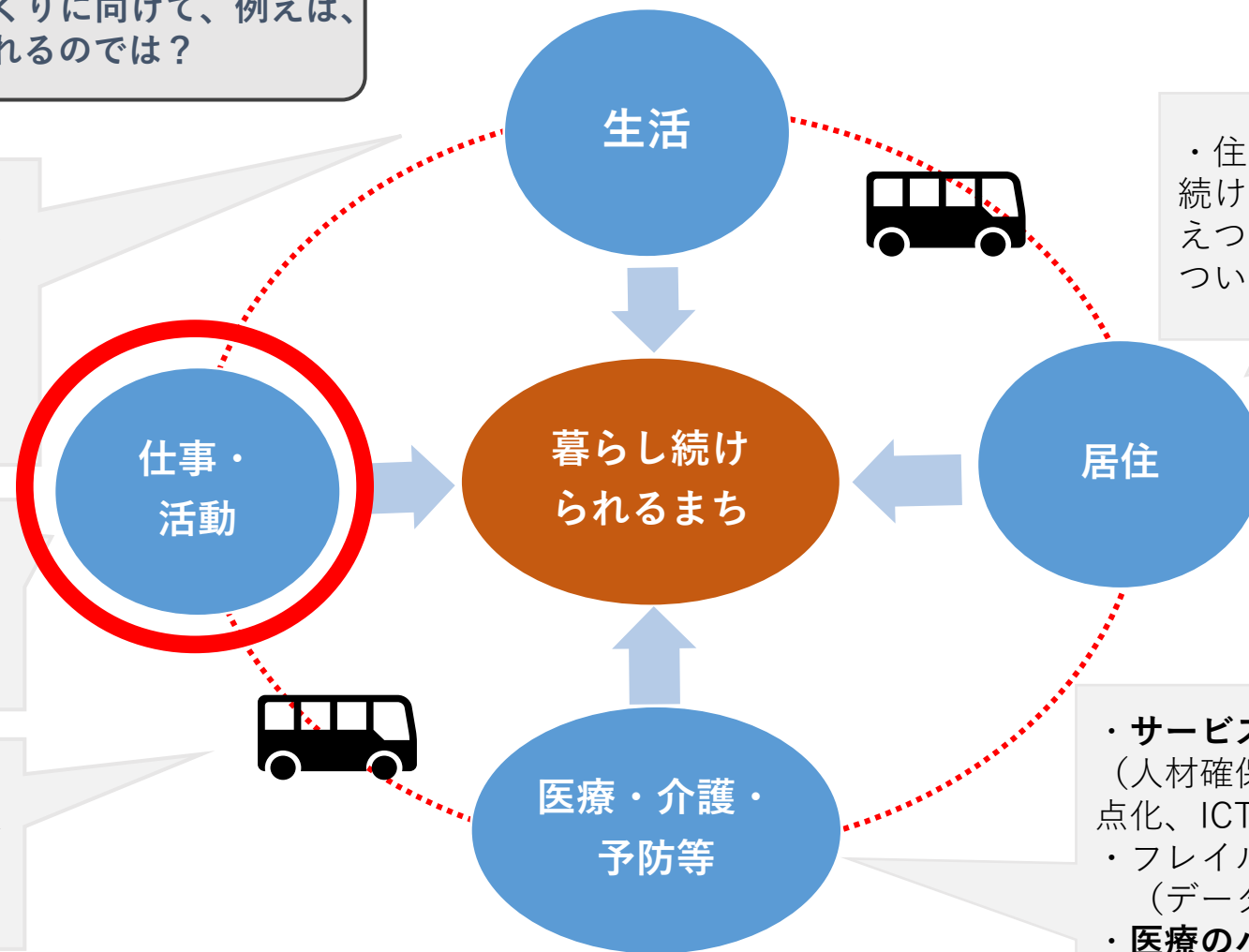
# —日常生活圏域単位での地域包括ケアシステムと地域づくりに向けて（イメージ例）

暮らし続けられるまちづくりに向けて、例えば、このような視点が求められるのでは？

・地域の困りごとや課題を把握し、相談や支援に結びつける**包括的・重層的な支援体制**  
 ・地域課題を解決する**地域住民が主体的に参画する組織づくり**

・地域住民が主体的に参画し、**活躍できる場と人材の育成**  
 ・若者等に**魅力のある定住対策**

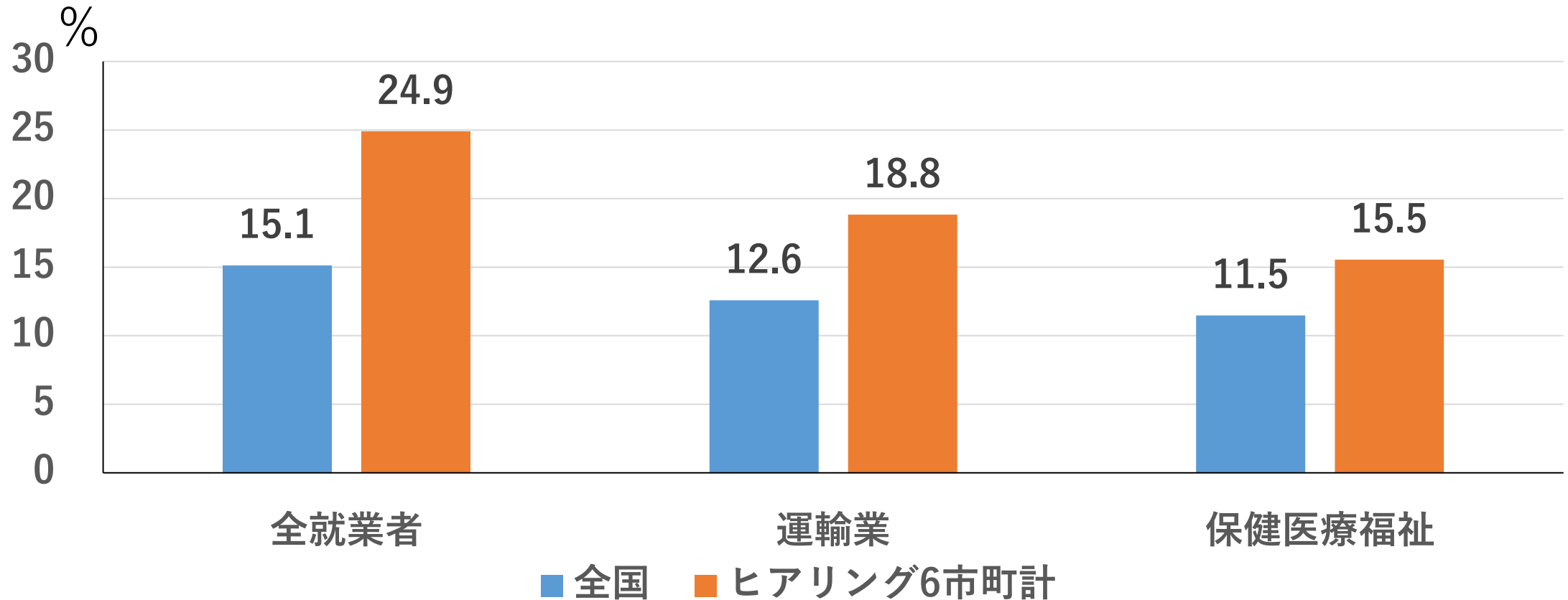
・各種サービスのアクセスの基盤となる**交通手段の確保**



・住み慣れた地域で高齢者が暮らし続けられるよう、地域の資源も踏まえつつ、**多様な高齢者の住まい方**について検討

・**サービス提供の持続可能な体制づくり**  
 （人材確保、広域的な調整、サービスの拠点化、ICT等のテクノロジー活用 等）  
 ・フレイル等の**予防対策の強化**  
 （データの収集と活用）  
 ・**医療のバックアップ**

# 就業者中の65歳以上の割合



運輸業、保健医療福祉等で高齢者が活躍。  
短時間勤務や種々の負担軽減支援などにより、さらに推進を。

# 地域資源の開発とマネジメントの4段階 (住民、団体・NPO、企業、大学などの地域資源を検討)

構想	ニーズとリソースの可能性・マッチング案など
把握	既存資料、募集、口コミ、観察・発見、アンケートなど
育成	研修・訓練、協議会・交流会、個別相談など
活躍	平時からの取り決め、発災時の連絡・依頼など

# 地域資源の把握

- 地域資源とは、**住民組織、民間企業や団体、保健医療関係者、保健活動に係るキーパーソン**等を指し、
- その他、**自然環境や建造環境**（施設や道路等）、文化、行事、特産品等も含まれる。

国民健康保険保健事業の実施計画（データヘルス計画）策定の手引き  
（令和5年5月18日改正）  
厚生労働省保険局国民健康保険課

1. 計画の基本的事項	2
（1）背景・目的	2
（2）計画の位置付け	2
（3）標準化の推進	3
① 標準化の利点	3
② 取り組むべき事項	4
（4）保険者及び関係者が果たすべき役割	5
① 市町村国保、国保組合の役割	6
② 都道府県（国保部局）の役割	9
③ 都道府県（保健衛生部局）の役割	11
④ 保健所の役割	11
⑤ 国民健康保険団体連合会及び保健事業支援・評価委員会、国民健康保険中央会の役割	12
⑥ 後期高齢者医療広域連合の役割	13
⑦ 保健医療関係者の役割	13
2-1. 計画に記載すべき事項と留意点（市町村国保）	13
（1）基本的事項	14
① 計画の趣旨	14
② 計画期間	14
③ 実施体制・関係者連携	15
（2）現状の整理	15
① 保険者の特性	15
② 前期計画等に係る考察	15
（3）健康・医療情報等の分析・分析結果に基づく健康課題の抽出	16
（4）データヘルス計画（保健事業全体）の目的、目標、目標を達成するための戦略	20
（5）健康課題を解決するための個別の保健事業	21
（6）個別の保健事業及び個別の保健事業の評価に基づくデータヘルス計画（保健事業全体）の評価・見直し	24
（7）計画の公表・周知	25
（8）個人情報の取扱い	26
（9）地域包括ケアに係る取組及びその他の留意事項	26
2-2. 計画に記載すべき事項（国保組合）	28
3. 国からの支援等	28
（1）国保・後期高齢者ヘルスサポート事業	28
（2）保険者努力支援制度等	28



# 日本老年学的評価研究

## JAGES調査フィールド

- 2022・2023調査協力保険者
- 過去の協力保険者

### JAGES 2022・2023

参加市町村数 76

送付数 約34万人

回収数 約22.9万人

回収率 約67.3%

(2023年11月20日時点)

### JAGES 2019/20

参加市町村数:66 送付数 約38.7万人  
回収数 約26.6万人 回収率 約68.7%

### JAGES 2016/17

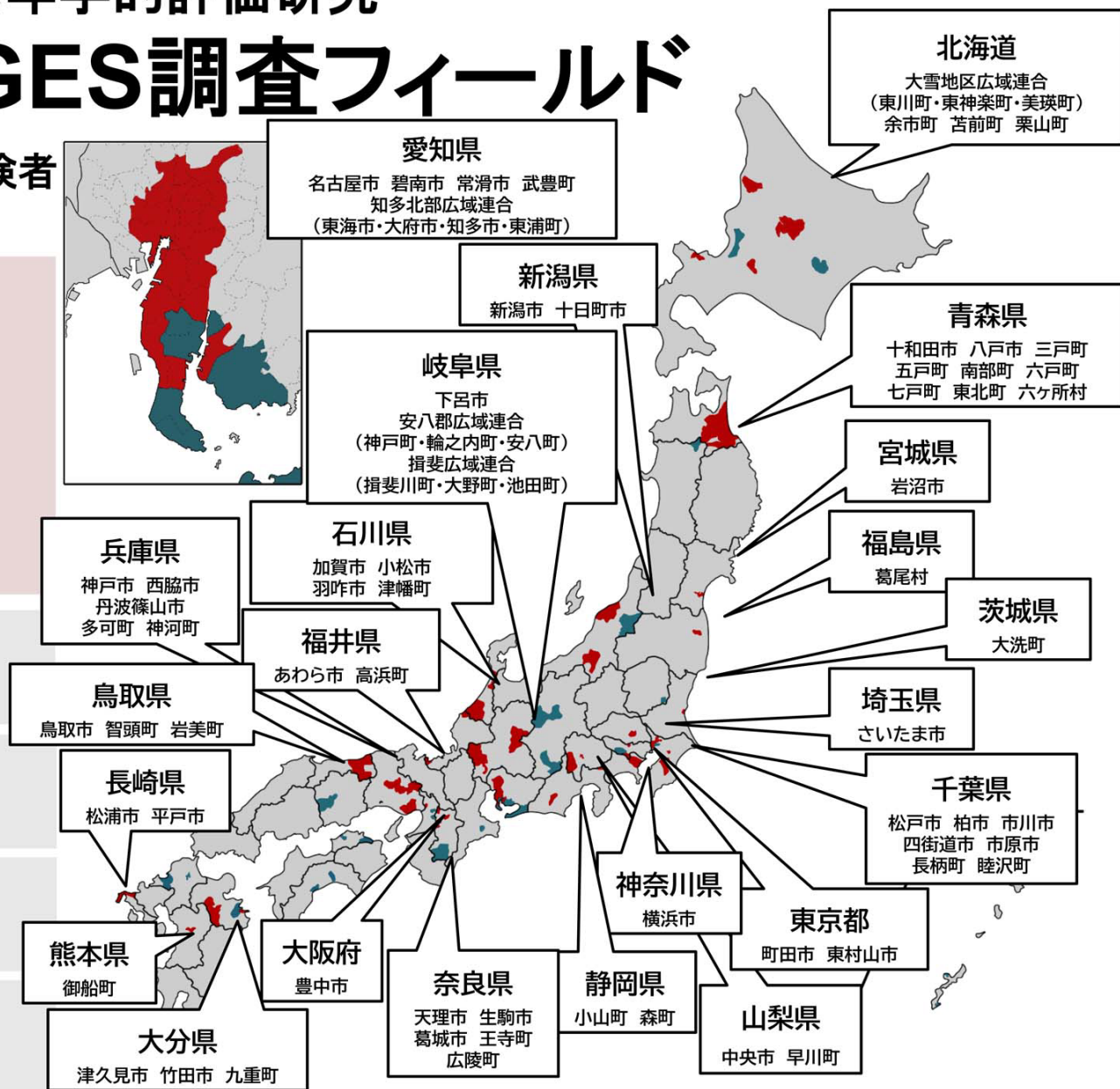
参加市町村数:41 送付数 約29.4万人  
回収数 約20.6万人 回収率 約70.0%

### JAGES 2013/14

参加市町村数 33 送付数 約21.2万人  
回収数 約15.3万人 回収率 約72.3%

### JAGES 2010/11

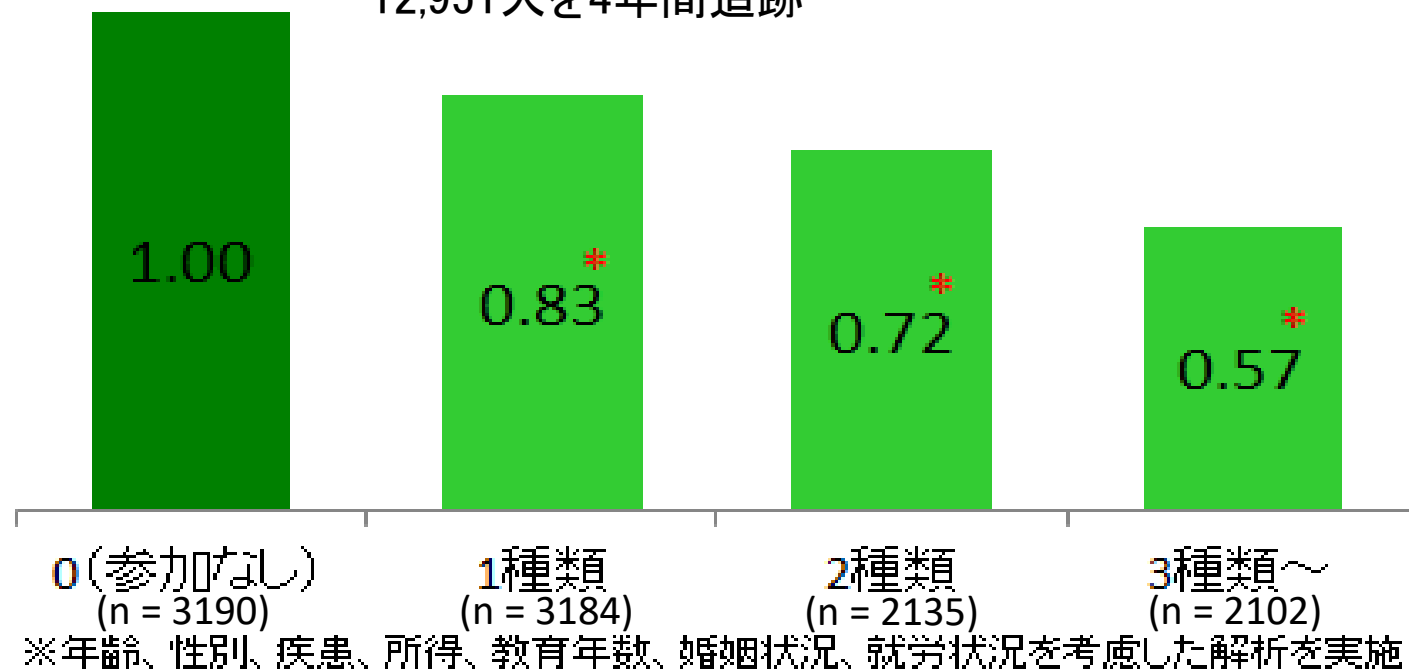
参加市町村数 32 送付数 約16.9万人  
回収数 約11.2万人 回収率 約66.3%



# 参加組織の種類の数別の 要介護認定の発生リスク

種類の数が多いほどリスクは減る \*は有意差あり

12,951人を4年間追跡



Satoru Kanamori, Yuko Kai, Jun Aida, Katsunori Kondo, Ichiro Kawachi, Hiroshi Hirai, Kokoro Shirai, Yoshiki Ishikawa, Kayo Suzuki, the JAGES group. Social participation and the prevention of functional disability in older Japanese: the AGES Cohort Study. PLOS ONE 2014.

URL: <http://www.plosone.org/article/info%3Adoi%2F10.1371%2Fjournal.pone.0099638>

# 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

問5(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に**企画・運営(お世話役)**として参加してみたいと思いますか

日本老年学的評価研究(JAGES)2019年度調査

参加60余りの市町村の合計

1. **是非参加したい (2.5%)**
  2. 参加してもよい (37%)
  3. 参加したくない (54%)
  4. **既に参加している(6.5%)**
- 「参加したい」+「既に参加している」で9%**

地域の元気、人々の元気のために  
「仕事・活動」の推進がカギ